

【緑地の樹】

ヒイラギ(柊)

プロフィール:モクセイ科モクセイ属
常緑小高木 雌雄異株

西緑地では花広場から桜広場へ向かう山道の入り口にある。(緑地のは雄株でしょうか?)

11~12月に白い5mmの香りのよい花が束になって咲く。翌年6~7月に暗紫色の実を付ける。

光沢のある縁にとげのある葉がつき、とげに触るとヒリヒリ痛むことから古語動詞「ひひらぐ(ヒリヒリ痛む)」から名が付いた。クリスマスに飾るセイヨウヒイラギはモチノキ科で違う種類。



日本では節分にイワシの頭を刺して入口に飾り、鬼を寄せ付けないようにしたり、また家の表鬼門(北東)に植えて災難を避けたり、実際に人が入らないように生垣として植えられている。

葉のとげは古樹になるとなくなり丸くなる。人間も年をとると丸くなると言われるが・・・

(宇野)